

ダジック・アース

展示場4階には「ダジック・アース」という大きな地球儀の展示があります。ダジック・アースとは、京都大学大学院理学研究科の地球惑星科学総合部可視化グループが中心になって進めているプロジェクトです。地球のような球体の映像を立体的に表示することで、よりリアルな姿をとらえ、地球や惑星の科学を楽しんでもらおうというものです(<https://www.dagik.net/>)。展示の前のレバーを倒すとそれに応じて、上下左右、いろいろな向きに地球を動かすことができます。

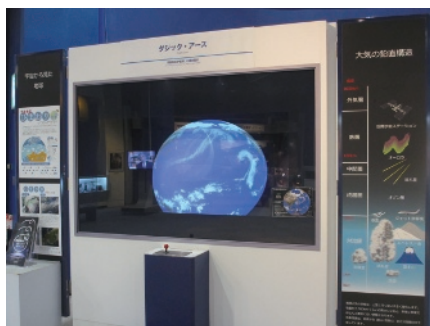


図1. ダジック・アース

展示では、春の季節の1週間についての、地球全体の雲の動きを表示しています。日本付近の雲の動きを見ると、西から東へ天気に移り変わっていく様子を見ることができます。一方、赤道付近では反対向きの動きがあり、緯度による雲の動きの違いも興味深いです。

この雲の写真は、気象衛星「ひまわり」で撮影したものです。と聞かれることがあります。「ひまわり」は東経140度付近の赤道上空付近に留まる静止衛星で、日本を中心として、東アジア・西太平洋地域を観測しています。そのため「ひまわり」だけでは、地球全体の雲の様子を知ることができません。展示の雲の映像は、同じ日の世界各地の気象衛星のデータを合わせた画像になっています。

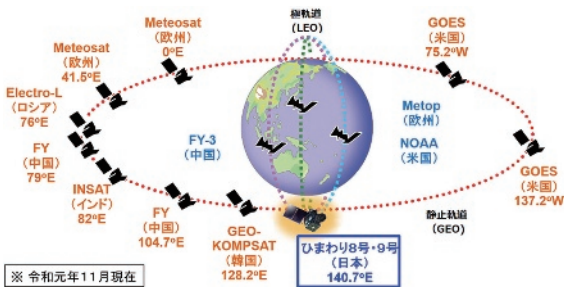


図2. 世界の気象観測網(気象庁ホームページより)

なお科学館は、11月6日(月)より、リニューアル工事のため長期休館となります。展示場もリニューアルで大幅に入れ替わる予定です。現在の展示場をご覧いただけるのも、あと3ヶ月ほどですので、ぜひ今のうちにお越しください。

江越 航(科学館学芸員)